

科目No.	553	科目名	コミュニケーション学事例研究4		サブネーム	市民とコミュニケーション	
連携機関	くらしとバイオプラザ21	レベル	基礎	講義日時	金曜日18:30～20:00	講義場所	お茶の水女子大学
科目概要	食品安全委員会がリスク分析手法を採用し、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションということばが聞かれる機会が増えている。評価や管理には専門家が関わり、調査報告や研究論文も出されているが、市民を対象とするコミュニケーション手法については様々な分野で担当者が試行錯誤を重ねている状態である。コミュニケーションの条件や環境も多様に異なる状況で、連携や情報交換も進んでいない。様々な分野における実際の活動を具体例として示しながら紹介し、「市民とのコミュニケーションのあり方」という切り口から、受講者とともに整理し、一緒に考えていく。						

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
はじめに	1	バイオの情報提供について	市民とのコミュニケーションという切り口で本講座で紹介される様々な活動の概要と本講座全体の進め方について説明する。NPO法人くらしとバイオプラザ21で企画・実施している体験実験教室や談話会など双方向性のある活動を紹介する。	4月11日	共通講義棟 1号館102	佐々義子	くらしとバイオプラザ21
食における市民とのコミュニケーション	2	学校給食の現状と課題	定時制高校、小学校の学校給食における活動を通じて、食を考え、実践しながら見てくる「食」のあるべき姿について紹介する。	4月18日		佐藤あけみ	さいたま市立中尾小学校
	3	食のリスクコミュニケーション	食品の安全確保のためのリスク分析の考え方とはどのようなものだろうか。また、食品安全委員会が行うリスクコミュニケーションについて紹介する。	4月25日		瀬古博子	食品安全委員会(予定)
	4	よりよい食のための情報発信	産地から食卓までの距離が拡大する一方の現代。よりよい食について知り、考えるのが難しい時代だからこそ、どのような情報発信ができるのか。流通各段階が連携した市民向け食育の事例などをとに考える。	5月2日		野崎杏子	ジャーナリスト 消費生活アドバイザー
ジャーナリズムにおける市民とのコミュニケーション	5	食品報道におけるメディアの功罪	一般市民は、食のリスク情報をテレビや新聞から最も多く得る一方、そうした情報に右往左往し、食への信頼が持てなくなっている。GMO、BSE、残留農薬、食品添加物など食にまつわる不安が、メディアによってどう引き起こされるのかについて、メディア側から検証することで、市民のリスクコミュニケーションのあり方を模索する。	5月9日		中野栄子	日経BP社
	6	市民の目線からの情報発信	わたしたちの生活は、科学技術にかこまれ、科学技術なくてはもはや成り立たないと言ってもいいでしょう。科学技術の成果を享受するわたしたちも、理解と取舍選択を主体的に行う必要があります。ここでは、暮らしに役立つ科学技術リテラシーを高めるために有効な情報発信の基本的な考え方と具体的な方法について考えます。	5月16日		古田ゆかり	サイエンスライター
ビジネスにおける市民とのコミュニケーション	7	女性のための企画作り	主婦を中心とした女性達へのバイオテクノロジー、遺伝子組み換え食品などの情報提供は、生活者へのレベルに合わせ表現することが重要であることを、経験を踏まえて考える。	5月23日		石井みな子	パーティーフー
	8	遺伝子組換え農作物と市民	日本の消費者への遺伝子組換え農作物に関する情報提供を行い、理解促進に努めてきた経験をふまえ、リスクとコミュニケーションのあり方について考える。	5月30日		坂本智美	シンジェンタシード(株)
	9	バイオテク教材販売を通して見た日本のバイオテク教育	バイオテク教材キットの販売を通して見てきた日本の学校及び社会でのバイオテクノロジーに関する教育の実際を、ライフサイエンス研究支援をしてきた立場から紹介し、今後の発展について考える。	6月6日		笹川由紀	筑波大学大学院生命産業科学研究科
	10	遺伝子検査会社から市民への情報発信	遺伝子検査は、珍しい難病の診断の際に実施されるだけでなく、がんや糖尿病、メタボリック症候群などの一般的な病気のかかりやすさや、薬の聞き具合や副作用の予測についても、行われるようになってきた。ペットの性格の遺伝子検査なども行われつつある。そうした新しい検査ビジネスの国内外の現状を紹介しながら、企業から一般の人々への遺伝子検査関連の情報発信のあり方について考える。	6月13日		金子景香	株式会社 ファルコバイオシステムズ
	11	生活者視点に立った商品づくり	時代とともに、生活者の生活スタイルは変化している。生活雑貨の製造を通じて、生活者の意識や行動を把握してきた立場から、試行錯誤しつつ生活者とのコミュニケーションをし、商品(モノ)づくりをしていく過程の一部を紹介する。	6月20日		小島みゆき	花王 生活者研究センター
教育/研究における市民とのコミュニケーション	12	東南アジアの農村と市民を結ぶ	タイ、フィリピン、インドネシアなどのファームシステムや病害防除の研究から、農民と市民の、食の安全を介した関わりを考える。	6月27日		夏秋啓子	東京農業大学
	13	医療における情報提供コミュニケーション～遺伝カウンセラーの立場から～	遺伝カウンセリングでは、遺伝や遺伝子、遺伝性疾患や先天異常に関する心配や疑問を抱いている人々に対して、様々な情報を伝えるとともに、人々が疾患や遺伝の情報をどのように受け止めるかを考慮しながら、その後の方向性を個人が自律的に決断していくプロセスを支援する。そうした実践の様子を紹介するとともに、遺伝子診断などについても触れてみたい。	7月4日		田村智英子	お茶の水女子大学大学院
まとめ	14	全講義をふりかえって	全講義を通じて、より公平な市民を交えたコミュニケーションのあり方について、全員の意見を出し合い、整理する。	7月11日		佐々義子	くらしとバイオプラザ21
コミュニケーションの基本を考える	15	植物を通じたコミュニケーション	植物を通じて、人間が成長する経験をふまえ、あしかがフラワーパーク園長として、樹木医として、多くの人との交流を通じて、スキルに偏らないコミュニケーションについて考えてみる。	7月18日		塚本こなみ	あしかがフラワーパーク

2008/3/10 講義No.4(5月2日)の講師変更。これに伴い講義名及び概要も変更。2008/3/13 教室の記載。2008/3/21 講義No.10(6月13日)及び講義No.12(6月27日)の講義名及び講義概要の入替え。08/3/25 講義No.10(6月13日)講師所属の変更。講義No.12(6月27日)及び講義No.13(7月4日)の入替え。2008/5/19 講義No.14(7月11日)及び講義No.15(7月18日)の入替え。